

金属における鏡面の表現とその結果報告展示

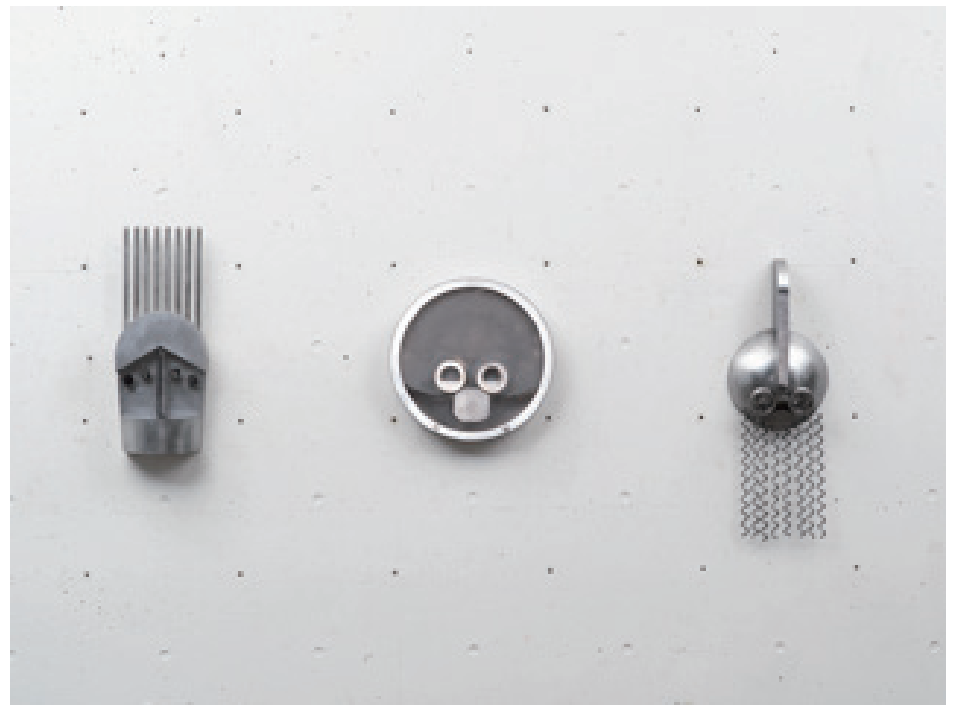
鉄の表面処理による鏡面加工を研究する

その特性を活かした作品を制作し、結果報告として展示を行う

下 虎之介（工芸4年）

制作に関するリサーチ

金属における鏡面表現を行う上で、初めに金属だけでなく鏡面、また鏡自体の意味合いについて調べた。現代で使用されている鏡としてではなく、民俗学的に見た用途であり、様々な地域、文化圏の文献をリサーチしたがその大半は宗教的な意味合いを持っていた。また、金属や石、硝子だけではなく、水や海自体にもそれと同様の用途を見出していた事など興味深い歴史を知る事ができた。その他にも鏡面性を生かした作品を制作する美術作家についてのリサーチも行った。



テストピースと加工

制作面では、どのような表情になるかを調べる為、50mm×80mmの鉄とステンレス (SUS304) の板材を準備し、テストピースを作成した。素材表面をランダムアクションサンダーや研磨剤を用いて番手の低い順から徐々に上げていく基本的な研磨のスタイルで制作した。鉄、ステンレスの両方で酸化皮膜のでき方や溶接痕による見え方の違いのテストも行った。基本的には鉄を用いて制作してきたので、ステンレスを扱う事は少なく、苦戦した面もあったが熱の加わり方や研磨時の変化を知る事ができ多くの学びがあった。このテストピースを元に金属工房にて本作品を制作を行った。またクロムメッキでの鏡面表現も金属の表面処理の一つであり、綺麗な鏡面になる。工業的な製品に使われる事が多いクロムメッキを作品に昇華できないかと試みたがこれは失敗に終わった。

結果報告展示

2月15日～2月25日にスパイラルガーデンにて行われた、工芸学科有志による卒業制作展示では多くの方に来場頂き、これまでの成果を報告することができた。自身の研究内容について多くのレスポンスを頂き、様々な方面から改めて考える事ができた。金属鏡面は金属の最たる特徴であり、魅力である。これからも素材の特徴と、その表現について研究していきたい。

